

2021年度

第3四半期決算

期間：2021年4月1日～6月30日

2021年8月5日ドイツ・ミュンヘン

素晴らしい業績 - 見通しを再度引き上げ

「シーメンスは、加速する高付加価値成長という目標を一貫して追求しています。第3四半期も、全ビジネスで力強く収益性の高い成長を実現しました。当社は、お客様のデジタルトランスフォーメーション、オートメーション、サステナビリティをうまくサポートできています。課題の多い環境ではありますが、例えばサプライチェーンといった分野でこれを克服しつつあります。当期も好調な業績を達成できたことで、世界各地にいるシーメンスのチームメンバーに心から感謝します」--シーメンスAG社長兼CEO ローランド・ブッシュ

「難しい環境が続く中、今年度上期は引き続き堅調な成長を見せ、当四半期も好調な結果を出しました。テクノロジーに特化した企業として当社の力強さが表れた結果が、当四半期の売上2桁成長、利益率の上昇、そして前四半期に続く好調なフリーキャッシュフローです。これを受けて、2021年度通期の見通しを今回も上方修正します」--シーメンスAG最高財務責任者ラルフ・P・トーマス

- 受注は、すべてのインダストリービジネスの成長により47%増の205億ユーロ。売上は、インダストリービジネスの大半が2桁成長を遂げたことから、24%増の161億ユーロとなった。出荷受注比率は、1.27。
- 為替変動とポートフォリオ効果の影響を除くと、受注は比較可能ベースで44%もの高成長、売上は21%増。
- インダストリービジネスの調整済みEBITAは、すべてのインダストリービジネスでの好調な業績により29%増の23億ユーロ、インダストリービジネスの調整済みEBITAマージンは15.3%。
- インダストリービジネスの調整済みEBITAの増加、そして非継続事業からの損益がプラスに大きく転じたことにより、純利益と基本1株当たり利益（Basic EPS）は大幅に増加し、それぞれ15億ユーロ、1.68ユーロとなった。
- 継続事業および非継続事業からのフリーキャッシュフローは当期も優秀で、23億ユーロに達した。

SIEMENS

(単位：100万ユーロ)	第2四半期		増減	
	2021年度	2021年度	実績	比較
受注	20,486	13,906	47%	44%
売上	16,085	12,979	24%	21%
利益 (Adjusted EBITA) インダストリービジネス	2,319	1,792	29%	
内：退職手当	(31)	(44)		
利益率 (Adjusted EBITA) インダストリービジネス	15.3%	14.3%		
退職手当を除く	15.5%	14.7%		
継続事業からの利益	1,376	938	47%	
内：退職手当	(57)	(58)		
非継続事業からの利益 (損失)、(税控除後)	105	(403)	n/a	
純利益	1,480	535	177%	
基本1株あたり利益 (単位：ユーロ)	1.68	0.67	150%	
フリーキャッシュフロー (継続事業)	2,285	1,920	19%	
フリーキャッシュフロー (非継続事業)	(11)	544	n/a	
フリーキャッシュフロー (継続事業と非継続事業)	2,274	2,464	(8)%	
ROCE (継続事業と非継続事業)	11.2%	3.9%		

- 新型コロナウイルス感染症による売上減少が大きい影響を受け困難な状況であった前年同期に比べ、シーメンスの主な市場の多くで成長機会が拡大。主に電子部品と原材料にかかわるサプライチェーンのリスクが継続しているが、当四半期は影響が緩和された。
- 受注高はとても好調で、すべてのインダストリービジネスと事業地域の2桁成長がこれを牽引。大型受注からの売上は前年同期比でほぼ2倍、これには米国でモビリティが獲得した28億ユーロの契約が含まれる。
- 売上は、全インダストリービジネスが成長したことで大幅な増加を見せた。中でもSiemens Healthineers、デジタルインダストリーズ、スマートインフラストラクチャーと全事業地域では2桁成長だった。
- 大幅な為替変動の影響で、それぞれ前年比で受注が5ポイント、売上が3ポイントの減算。ポートフォリオ効果の影響は、主に当四半期中に完了したバリアン・メディカル・システムズ (バリアン) の取得に関連するもので、受注に8ポイント、売上に6ポイントの加算をもたらした。
- インダストリービジネスの調整済みEBITAの増加は、主にSiemens Healthineersとスマートインフラストラクチャーの急拡大によるもの。2020年度第3四半期にベントレー・システムズ (ベントレー) の株式の評価替えが利益に2億ユーロの貢献をしたデジタルインダストリーズ、そしてモビリティは、引き続き力強い成績を見せた。
- インダストリービジネス以外では、シーメンスファイナンシャルサービスの利益が大幅に増加したものの、他の要因、主にシーメンス・エナジー株式会社の投資の結果がマイナスになったことと、主にバリアンの取得により事業の統合を進める中で取得した無形資産の償却費用が増加したことで大きく相殺された。
- 純利益は、インダストリービジネスの調整済みEBITAの増加、所得税引当金の戻入れによる税費用の減少、また非継続事業からの損益が所得税引当金の戻入れの貢献もあって黒字に転じたことにより、大幅に増加した。2020年度第3四半期の非継続事業からの損益では、主に以前のエネルギー事業に関連する損失を計上していた。
- インダストリービジネスでは第3四半期、2021年度上期の好調な業績が継続し広い範囲で上向いたことから、高いフリーキャッシュフローが創出された。これによりインダストリービジネスのフリーキャッシュフローは24億ユーロと、前年同期の21億ユーロからアップし、キャッシュコンバージョンレートは1.04となった。非継続事業からのフリーキャッシュフローは、2020年度第3四半期には主に以前のエネルギー事業に関連して大幅なキャッシュインフローを計上していたが、当期はほぼゼロになった。
- キャッシュアウトフローの134億ユーロはバリアンの取得に関連するもので、支払額はフリーキャッシュフローに含まれない。
- 2021年6月30日現在の年金引当金および類似債務は29億ユーロ (2021年3月31日時点では33億ユーロ)。この減少は、主に年金資産の運用収益がプラスであったことによるもので、割引率の低下により一部相殺された。
- ROCEは、主に純利益の増加により上昇した。